

第5学年 社会科 学習指導案

1. 単元名『わたしたちの暮らしと情報』

(教科書：『小学社会 5 下』 p. 2～27／学習指導要領：内容（4）ア、イ）

2. 単元の見どころ

災害発生時にラジオが果たす役割や小千谷市が緊急告知ラジオを配置したことを調べ、ラジオの有効性を明らかにしていくことを通して、情報を発信する側には役割や責任があること、情報を受信する側には積極的に情報を受信したり必要な情報を選択したりする必要があることを理解し、情報化社会において様々な情報を適切に判断し、自分の生活に生かすことの大切さに気づく。

3. 単元の評価規準

社会的な事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的な事象についての 知識・理解
身のまわりには様々な情報手段があることに気づき、必要とする情報の種類、時や場合に応じて、情報手段を選択しながら情報を得て、活用しようとしている。	情報を発信する側と情報を受信する側がそれぞれ果たすべき役割や、情報の取捨選択の必要性について考え、表現している。	資料や聞き取り調査などを活用して、適切な情報手段を用いて、必要な情報を得ることの大切さを読み取っている。	身のまわりには様々な情報手段があることや、必要な情報を自ら取捨選択して活用することの大切さについて理解している。

4. 指導にあたって

(1) 児童の実態

日頃からラジオを情報手段として活用している児童は多くない。まず本単元の導入では、児童の生活経験を振り返ったり、家族への聞き取り調査をまとめたりすることで、身のまわりに様々な情報手段があることを明らかにする。その後、児童が日頃使うことの少ないラジオが災害発生時には貴重な情報源となって人々の役に立つことや、新潟県中越地震の経験から緊急告知ラジオが配置されていることを理解することを通して、生活するうえでラジオが必要な情報手段であることを実感させたい。そして、児童が、様々な情報手段を有効活用し、自分にとって必要な情報を得ることができるようにしていく。

(2) 教材について

数多くの情報手段が発達した今日において、児童がその一つとしてラジオとかかわる機会は少ない。しかし、ラジオは大切な情報収集源であり、特に地震や大雨などの災害発生時にはその力を発揮する。新潟県中越地震や東日本大震災でも、被災者にとっての情報収集源として、その有用さが認められている。

本単元では、新潟県小千谷市が、市内すべての世帯と事業所に配置した緊急告知ラジオを取り上げ

る。新潟県中越地震のときは、市内全域に小千谷市からの情報を伝達する手段に乏しく、特に情報弱者とされる高齢者などへの情報伝達手段が大きな課題となっていた。その後、小千谷市は緊急時の情報伝達手段のあり方を検討し続け、緊急告知ラジオを導入することとなった。小千谷市が、市民の安全を守るために整備したことを知ると共に、提供される情報を有効に活用する必要性について考えられるようにする。本単元を通し、今まで見えていなかった自分の生活とラジオとのつながりに気づき、情報を発信する側の役割や責任、受信する側の正しい判断の必要性、情報の有効活用 の大切さを考えられるようになってほしいと考える。

(3) 指導上の工夫・留意点

児童の生活において、ラジオとのかかわりは薄い。しかし、特に災害発生時には非常に有効な情報手段となる。そのことを具体的に捉えるために、家族への聞き取りや東日本大震災におけるデータ、ラジオ局に勤める方の話、緊急告知ラジオや市役所の方の話など具体的な教材を学習に取り入れる。それら教材に対する児童の意識や考え、かかわりの度合いなどを見取り、児童が情報手段としてのラジオについて見直し、自らの生活に少しでも生かしていこうと考えられるような工夫をしていく。児童が、ラジオは自分たちの身近にあるのだということを認識できるような単元づくりに取り組んでいく。

5. 小単元の指導計画（総時数 11 時間）

時	ねらい	○学習活動 ・内容	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
① (つかむ)	身のまわりにある情報に関心をもち、どのような手段でそうした情報を得ているのか、調べる意欲をもつ。	○身のまわりにある情報を挙げる。 ・ニュース、スポーツの結果、イベント情報など 自分たちは、何を使って情報を得ているのだろうか。 ○児童が使っている情報手段の数をグラフで表す。 ・テレビやインターネットで得ている。 ・ラジオはあまり聞かないし、役立っているのかわからない。 ○家族は、何から、どんな情報を得ているのか、次時までには調べてくる。	◇身のまわりには様々な情報があることに気づかせる。 ◎児童が使っている情報手段をグラフに表すための用紙 ◇少数意見もできる限りグラフに反映する。 ◆身のまわりの情報をどのようにして得ているのか、関心をもって調べようとしている。 (関・意・態／発言)

② (つかむ)	家族から聞き取ったことをまとめ、情報を得る手段の傾向をつかみ、疑問点を明らかにする。	○家族からの聞き取りの結果(使っている情報手段の数)をグラフに表す。 ・やっぱりテレビが多い。 ・大人は新聞も多い。 ○児童と家族のグラフを比較する。 ・テレビやパソコンはどちらも多い。 ・大人は子どもに比べるとラジオを使う人が多い。 子どもがあまり使わないラジオを大人が使うのはどうしてか。 ・車の中で聞いていると言っていた。 ・映像がある方がわかりやすいと思うけれど、どうして使うのだろうか。 ○ラジオを使ってどんな情報を得るのか、なぜラジオを使うのかを、次時まで家族に聞いてくる。	◎前時で使ったグラフ用紙 ◇児童と家族の結果を色分けして、違いを可視化する。 ◆家族から聞き取ったことやグラフで表された調査結果から、ラジオが情報手段として活用されていることに気づく。 (技／発言、ノート)
③ (調べる)	家族への調査結果や東日本大震災時の行動調査結果から、ラジオが災害時に活用されていることに気づき、その理由を考えようとする意欲をもつ。	ラジオを使ってどんな情報を得ているのだろうか。 ○家族から聞いてきたこと(ラジオで得ている情報・ラジオを使う理由)を発表し合う。 ・自動車で移動するときに聞いている。ニュースや生活情報などを得ている。 ・仕事をしながら聞くことができる。映像がないので、画面に注目しなくてもよいから、気軽に聞くことができる。 ・地震などの災害の時に、ラジオは役立つ。 ・東日本大震災のときも、ラジオが使われていた。 ○どうして災害時に、ラジオを使って情報を得ているのかを考える。 ・持ち運びができるからかな。 ・乾電池を使えば、停電でも使えるよ。 ・中越地震のときはどうだったのかな。 ○災害時にラジオを使う理由や、新潟県中越地震のときにラジオを使ったかどうかを、次時まで家族に聞いてくる。	◎『東日本大震災情報行動調査報告書』(抜粋) ◇平常時と比べ、地震発生後数時間までの間に利用した情報手段としてラジオが多かったことを確認する。 ◆家族への調査結果や東日本大震災時の行動調査結果から、災害時にラジオが活用されていることに気づく。 (技／発言、ノート)

④ (まとめ)	災害発生時にラジオが活用される理由を話し合ったり、ラジオパーソナリティの話を聞いたりして、ラジオが有効な情報手段であることを理解する。	地震が発生したときにラジオが使われるのはどうしてか。 ○家族から聞いたことや自分で考えたことを発表し合う。 ・持ち運びができるし、すぐに聞けるから。 ・停電でも、電池があれば聞けるから。 ・災害直後は、携帯電話がほとんどつながらなくなると聞いた。 ・停電になると、テレビやパソコンは使えないから、ラジオを使う。 ○FM ラジオのパーソナリティの話を聞く。 中越地震で被災したとき、ラジオがとても頼りになった。東日本大震災では、ラジオを通して情報を伝える立場になった。常に相手の立場に立って話しかけるように心がけた。 ・地震などの災害の時には、ラジオがとても役に立つことがわかった。	◎FM ラジオのパーソナリティへのインタビュー ◇情報の受け手と伝え手の両方の立場から考えさせる。 ◆災害発生時には、ラジオが有効な情報手段であり、様々な人が活用していることがわかる。 (知・理／発言、ノート)
⑤ ⑥ (つかむ)	緊急告知ラジオに関心を持ち、普通のラジオとの相違点について調べる意欲をもつ。	○緊急告知ラジオの実物に触れてみる。 ・ラジオなのにライトがついている。 ・普通にラジオが聞ける。 緊急告知ラジオについて調べたいことは何か。 ・緊急告知とは、どんな放送が流されるのか。 ・緊急告知放送を流す仕組みは、どうなっているのか。 ○資料から、市が緊急告知ラジオの配置を知らせている様子を読み取る。 ・普通のラジオとは違うみたいだ。その違いを明らかにしていこう。	◎緊急告知ラジオ（各グループに1台用意する） ◇ラジオに触れさせ、気づいたことや疑問点を共有する。 ◎緊急告知ラジオの配置を知らせる市報 ◆緊急告知ラジオと普通のラジオとの相違点について調べようとしている。 (関・意・態／発言)

⑦ (調べる)	緊急告知ラジオと普通のラジオの相違点について話し合い、なぜ小千谷市は緊急告知ラジオを無償で配置したのか、考えようとする意欲をもつ。	○緊急告知ラジオと普通のラジオの違いについて話し合う。 ・小千谷市内すべての家に配置されている。 ・緊急時に自動的に放送が始まる。 ・無料で各家庭に配られた。 緊急告知ラジオに対する疑問を明らかにしよう。 ・なぜ、小千谷市はこのラジオを配ったのか。 ・周りの他の市では、無料で配っていないのはどうしてか。	◇緊急告知ラジオが無償で配置されたこと、自動受信機能があることなど、普通のラジオとの違いを明確にさせる。 ◆どうして小千谷市は他市と違い、緊急告知ラジオを無償で配置したのかを考えようとしている。 (関・意・態／発言、ノート)
⑧ (まとめる)【本時】	緊急告知ラジオが全戸に配置された理由や、市の担当者の思いや願いを理解し、情報を自ら集めて有効に活用することの大切さに気づく。	小千谷市が緊急告知ラジオを全戸に配置する理由は何だろう。 ・市民の命を守りたいから。 ・災害時に役立つことをラジオがしているから。 ・停電でも使えるし、ライトもついているから。 ○市の危機管理課長の話を聞く。 緊急告知ラジオなら、誰でも速く、確実に緊急情報を得ることができます。全市民の防災に役立ててもらいたいと考え、全戸配置しています。でも、本当に大切なのは、自分の身は自分で守れるようにすることです。 ・いち早く情報を伝えるために配置されたのだな。 ・でも、ラジオがあるだけで安心なのだろうか。	◇緊急告知ラジオが全戸配置された理由を、市の担当者の思いやラジオの機能などをもとに整理して板書する。 ◎市の危機管理課長の話 ◆緊急告知ラジオ導入の理由を理解し、情報を自ら集めて有効に活用することの大切さについて考え、表現している。 (思・判・表／ノート)

⑨ ⑩ (つかむ・調べる)	時と場合に応じて、必要な情報を適切な手段で収集し、活用することが大切であるとわかる。	○緊急告知ラジオ以外にも、防災・災害情報を得る手段はないか話し合う。 ・インターネットやメールでも情報を得られる。 ・テレビのデータ放送でも得られる。 ・東日本大震災では、時間の経過とともに利用された情報手段が変化している。 時間の経過とともに、利用された情報手段が変化したのはなぜか。 ○利用された情報手段が変化していった理由を話し合う。 ・停電が直ったから、映像も見られるテレビが使われるようになった。 ・ラジオの利用は1か月後には少なくなるけれど、地震発生前よりも多く使われている。大切な情報手段であることに変わりはない。 ・様々な情報手段を使うことで、より多くの情報を得ることができる。情報手段を使いこなしていきたい。	◎『東日本大震災情報行動調査報告書』（抜粋） ◇普段～地震発生1か月後までの、利用された情報手段の変化を読み取らせる。 ◇利用された情報手段の変化の理由を考えさせる。 ◆時と場合に応じて、必要な情報を適切な手段で収集し、活用することの大切さがわかる。 (知・理／ノート)
⑪ (まとめる)	様々な情報手段の役割や、必要に応じて情報を有効活用することの大切さについて、新聞にまとめる。	これまで学習したことを新聞にまとめよう。 ○様々な情報を適切に活用し、自らの生活に生かしていこうとする内容で、学習したことを新聞にまとめる。 ・様々な情報を自分の生活や防災に役立てたい。 ・情報手段のそれぞれの特長を生かして、活用していきたい。	◇情報を発信する側と受信する側の両面からまとめさせる。 ◆身のまわりにある情報手段を、それぞれの役割や必要に応じて有効に活用することが大切であることを考え、表現している。 (思・判・表／新聞)

6. 本時の指導（第8時）

(1) 本時のねらい

他の市とは違い、小千谷市では緊急告知ラジオを全戸配置している事実に着目し、どうして小千谷市は全戸に無償で配置するのかを考えることを通して、導入された理由や市の担当者の思い、願いを理解し、情報を自ら集めて有効に活用することの大切さに気づく。

(2) 本時の展開

時配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
10	○小千谷市と他の市との緊急告知ラジオの配置の違いについて、考えたことを発表する。 T：緊急告知ラジオの配置状況について、小千谷市と他の市で比べてみました。小千谷市は、他の市と違って全部の家にラジオを配っています。どうしてでしょう。 C：全部の家に配ったということは、すべての市民の命を大切に思い、守れるように配ったのではないか。 C：地震などの災害に備えるために、配ったのではないか。	◎各市の緊急告知ラジオの配置状況をまとめた表 ◇前時までに学習したことを振り返り、本時で話し合うことを確認する。
20	他の市と違い、小千谷市が緊急告知ラジオを市内全戸に配置する理由は何だろう。 ○自分の考えをノートに記述する。 T：それでは、自分の考えをノートに書いてみましょう。 ○考えたことを発表し合う。 T：どんなことを考えたか発表してください。 C：中越地震があつて、みんなが怖い思いをした。その恐怖心をなくすために配った。 C：中越地震の時、情報不足で困った人がいたと思うから、配った。 C：災害が起こったときに、市民を不安にさせないため。 C：災害時に、ラジオを頼りにしている人が多いから。 C：他の市と比べて人口が少ないから、全部の家に配ることができた。 ○考えたことの妥当性について話し合う。 T：このラジオを配っているのは誰でしょう。 C：市役所の人。 C：市役所の危機管理課が配置した、と資料に書いてある。 T：危機管理課の人たちは、どういう思いでラジオを配置したのでしょうか。 C：市民の安全を考えている。 C：考えていなければ配置はしない。 T：これで、なぜ配置したのか確かめたことになりますか。 C：ならない、もっと調べてみたい。 C：危機管理課の人に話を聞いて確かめたい。	◇個人で思考してから、ペアで交流する。 ◇資料や掲示物、ノートの記述など根拠を明らかにして自分の考えを述べられるようにする。 ◇出された理由を、小千谷市の思いや願いに関することと緊急告知ラジオの機能面に関することに整理して板書する。

15	○危機管理課の方に話を聞く。 市の危機管理課の方の話 緊急告知ラジオを配置した一番の理由は、市民の生命と安全を守るためです。災害時、市民に必要な情報を、いち早く伝えるために配置しました。ラジオなら手軽に配置できると考えました。いわゆる情報弱者の人も使うことができます。中越地震では、情報伝達にとっても時間がかかりました。防災体制の強化、情報の伝達が必要だという観点から配置しました。みなさんにも活用してほしいと思っています。 T：お話を聞いてどうですか。 C：市民の安全を考えて配置したことがわかった。 C：中越地震の経験をもとに、配置されていた。 C：生命と財産を守るという大切な目標があった。 C：様々な状況の人々に、情報を伝えるためだった。 T：では、振り返りを書きましょう。	◎市の危機管理課の方の話 ◇緊急告知ラジオの配置に込められた思いや、様々な情報を集め、有効に活用していくことの大切さについて、市の担当者に話してもらう。 ◆緊急告知ラジオ導入の理由を理解し、情報を自ら集めて有効に活用することの大切さについて考え、表現している。 (思・判・表／ノート)
----	---	---